

#006
第9回 V-STAR GP



古川 史弥 51フーガ 兵庫県・26歳

テーマは「シンプル」。そのため、ワンオフに頼らず、J-UNITの各エアロとSSRプロフェッサーSP4を、Tディメンドのフルアームで武装。たったこれだけの仕様でも、VIPとしての存在感は充分あり。ある意味、原点回帰とも言える51フーガだ。



スマホで車高調整できるV8は最高!

プロフェッサーSP4とTディメアサスの組み合わせ。iPhoneで設定可能なV8マネジメントを装備。フロントの重厚感が高まる追加フォグはJ-UNITを象徴するパーツ。造形美が人気の理由である。

#005
第9回 V-STAR GP



木村 勇太 19GS 広島県・25歳

リア周りは、プラパルのGS用と210クラウン用をミックス。フロント、サイド共にプラパルを使用しているため、全体のまとまりは完璧だ。写真にはないけど、車輪のグレードがブラックインテリアなので、外装との統一感もバッチリなはず。



腹下加工でさらに5cmダウンしています!

19GSのボディラインに合わせて、プリスターフェンダー化。フロントは15cmワイド19-10.5J、リアは25cmワイドで、19-12.5Jを合わせている。

#002
第9回 V-STAR GP



上田 裕輔 18マジエスタ 京都府

独特の造形美を目指すためのテーマ。それが「スーパーコンバットスポーツ」だった。エアロはプラパルの3点を流用。オーナーの上田君曰く、「近未来的なデザインが好きなので原型は残しつつフル加工」。その造形に対するこだわりはハンパない。



日本を象徴するホワイト&レッドで彩られた内装は、L-TIDEシートカバー、マットとレザー張り替えてメイク。ハンドルまで色替える徹底ぶり。

プリスターの形状は、35GT-Rがモチーフ。210クラウンのライトを移植し、18マジエのヘッドライト造形に合わせて、フェンダーラインを一体化している。

#001
第9回 V-STAR GP



田中 大貴 31セルシオ 愛知県・24歳

VIPには珍しい艶消しを使った31セルシオ。ドライドプラムレッドと呼ぶらしいこのボディカラーは、大貴君のDIYによるものだ。A-LIVEエアロ、廃盤となってしまったWORKヴァリアンツァF2Sなど、リメイクしたポイント全てがレア感満載。



この後は腹下のフル加工とフルアームで!

COBドライドを埋め込んだリア周り。この造形もA-LIVE加工ならではの。レーシーな雰囲気漂うダクトも追加。オーバーフェンダーは、自然なアーチがポイント。ヴァリアンツァF2Sは、フロント19-9.5J、リア19-10.5Jを装着。

#008
第9回 V-STAR GP



永田 みほ 18クラウン 埼玉県・28歳

ボンネット、フェンダー、サイド、リア各部に施されたワンオフものと、ホワイト&ピンクに統一された室内とのギャップが可愛いらしいクラウンは、夫婦でVIPカーを楽しむみほさんの愛車。ワンオフしたちょうちよがポイントの、ヘッドライトもお気に入り。



旦那さんのアリストも完成!取材してね!

ダクト加工といった各部の造形や、グランシーカーでのこのツライチのセットアップなど、やっていることは男前。でも、中身は可愛らしき満点。

#007
第9回 V-STAR GP



森村 文皓 120マークX 兵庫県・34歳

フロントのダクトやリップの形状、リアのスポーティなウイングなど、120マークXでマッチしたスタイルを目指した森村君。各エアロはK's BPAによるワンオフもので、「世界に1台だけの車輪にしたかった」という思いは、全体から溢れている。



「大雨でFバンパーを大破(涙)」させたそうで、再生させたの参加となった。それに合わせてメッシュはブラックに。ボンネットもK's BPAによるもの。

フェンダーダクト、パーフェン、マフラーエンドなど、全てK's BPAが担当。コンセプト通りの完成度は、森村君とK's金子さんの情熱が溢き出した。

#004
第9回 V-STAR GP



高橋 翔太 30セルシオ 広島県・27歳

「シンプルと言えば純VIP」という高橋君の言葉通り、エイムゲインのバンパー3点を装備した、美しい街乗りシンプル仕様。しかし、フェンダーはノーマル風ラインを意識したオーバーフェンダー化で、さり気なくオリジナリティを強調しているのだ。



V-STARで興外イベント初参加です!

叩き出してフロント1.5cm、リア4cmを獲得。「段リムに惹かれて」手に入れたホイール、TWSエクストリート107Mとの相性も、ボルドエアサスでバッチリ。

#003
第9回 V-STAR GP



岩根 汐利 17マジエスタ 愛知県・29歳

ビンテージブロンスの激シブ17マジエのオーナーはなんと女性。「自分で愛車をイジリたかった」と、今回のリメイクポイント、フロントバンパーの短縮加工は自ら挑戦と、その情熱の注ぎ方に脱帽。リム通りの車高といい、そのギャップが素敵。



18インチのグノースGS-IIでリム被りを実現するために、チャクリキダンバー装着や腹下底上げ済み。マフラーはフロントからワンオフした3連タイプ。

ダクト加工を施しただけで、フェンダーの他部分は基本ノーマル。テンション、ナックル、フルアームと326パワーで、ベタベタな姿を実現した。